

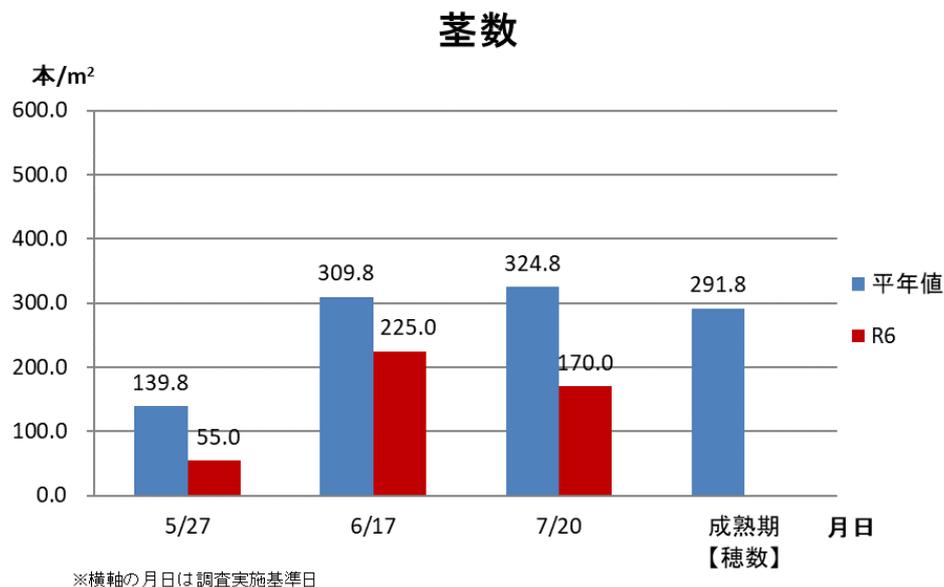
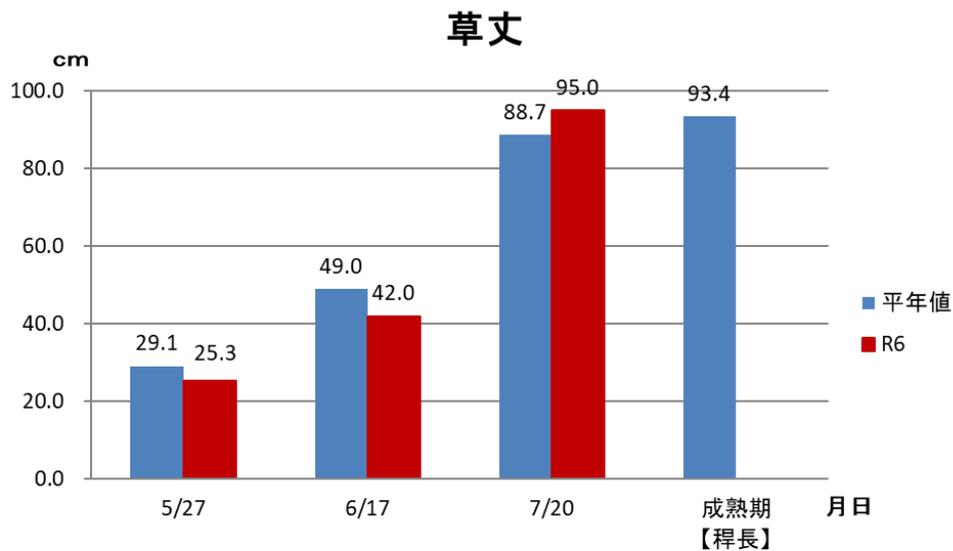
令和6年度 農作物（水稲）モニター事業調査結果

本県NOSA Iでは、水稲の生育状況を調査し、気象・病虫害発生状況などの基礎情報を継続的に観測して、県内水稲の作柄や被害発生状況の把握に務めています。

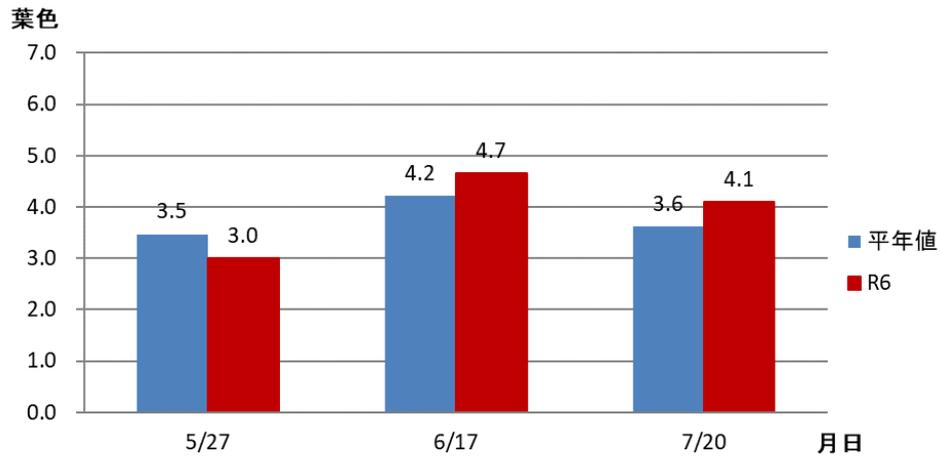
1. 水稲の生育および病虫害発生調査結果（第3回）

1) 水戸市の調査結果

調査場所	品種	移植日	調査日
水戸市	コシヒカリ	5月6日	7月18日

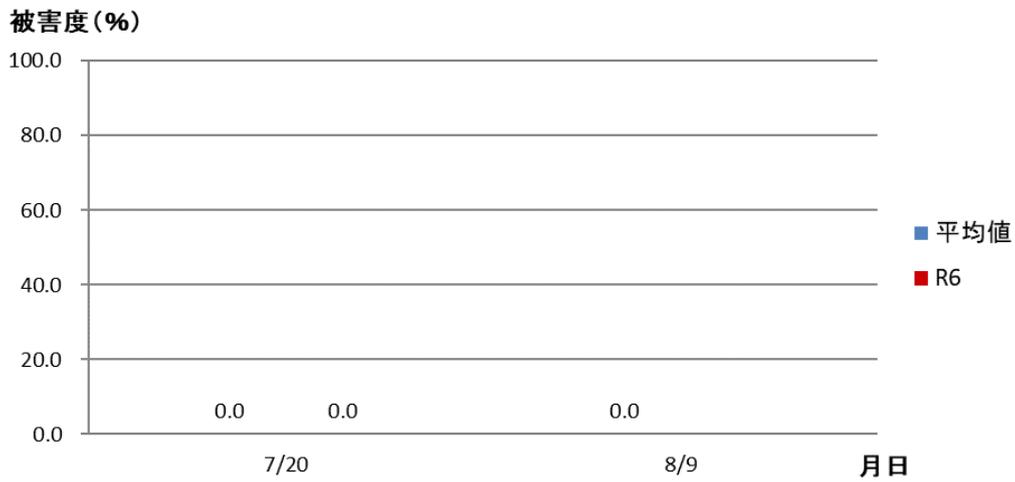


葉色(カラースケール)



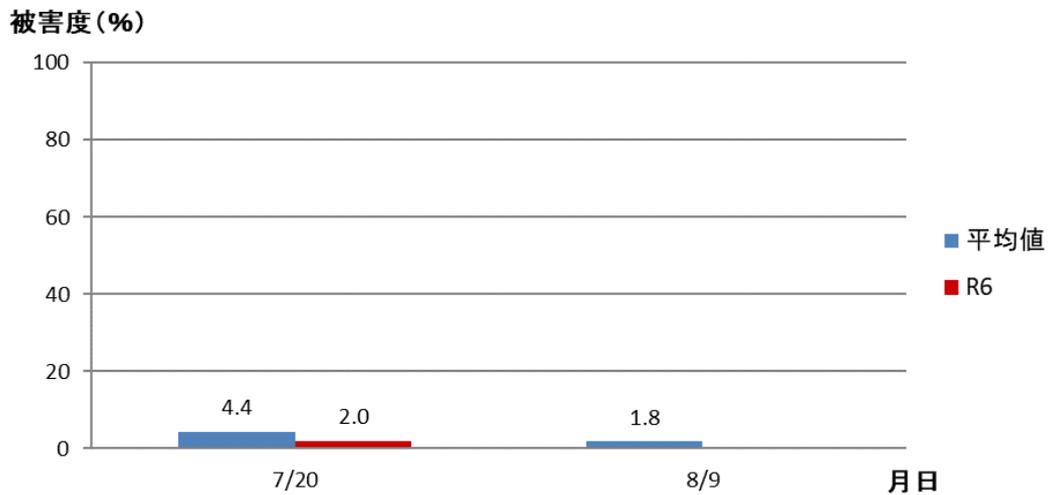
※横軸の月日は調査実施基準日

カメムシ類



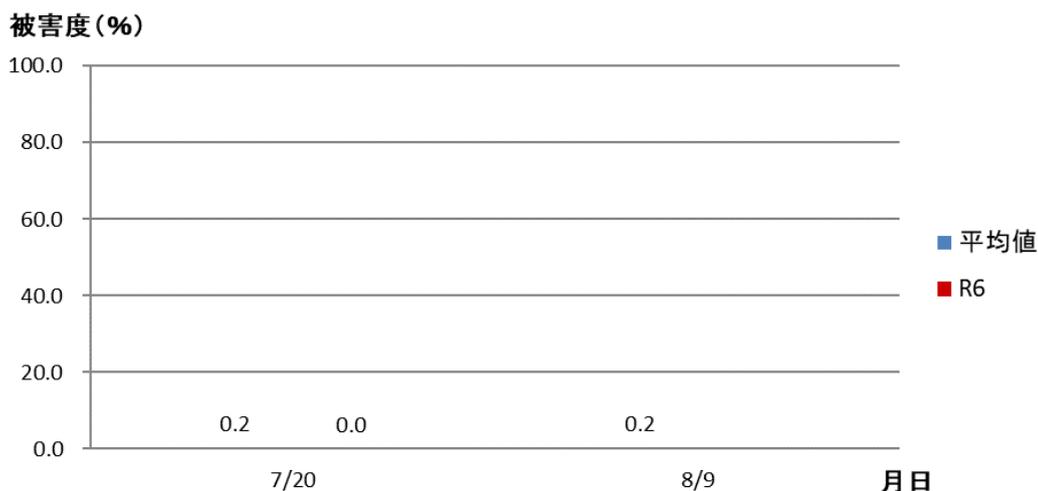
※横軸の月日は調査実施基準日

葉いもち



※横軸の月日は調査実施基準日

紋枯病



※横軸の月日は調査実施基準日

- 被害度は該当虫による葉の食害の度合い
- 平年値は令和1～令和5年の5年間の平均値

○生育調査結果について

【生育状況：過去5カ年の平均値との比較】

生育は、過去5カ年の平均値に対し、草丈はやや高く、茎数は極く少なく、葉色はやや濃くなっています。

【今後の管理上の注意点】

茎数が極く少なく推移しています。気象庁の長期予報では、今後、気温が高くなることが予測されていますので、粒の充実による収量維持と、乳白米の発生抑制を目的に、根の活力を維持するため、自然落水しながら2～3日程度の湛水と落水後、田面が乾く前に入水を繰り返す間断かんがいを実施しましょう。

○病害虫発生調査結果について

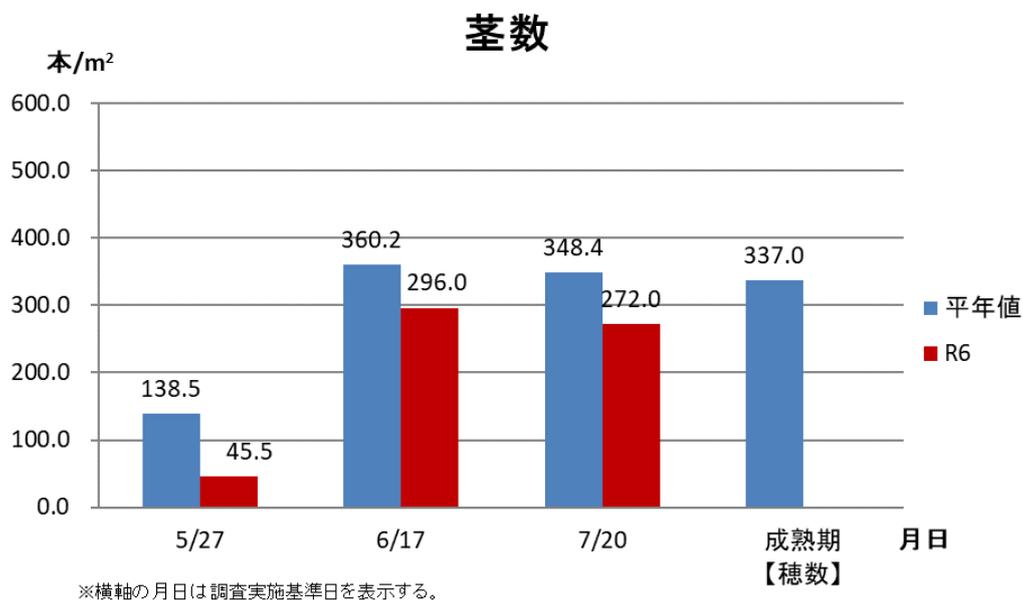
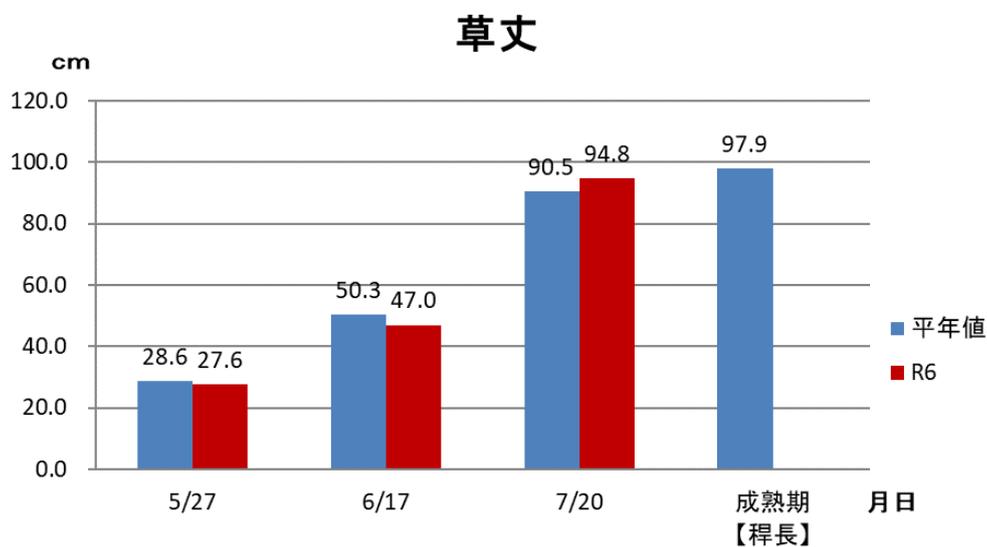
現時点ではカメムシ類の発生は「無」ですが、本年は、県内で斑点米カメムシ類の発生が特に多くなっており、7/11に4年ぶりとなる病害虫発生予察注意報が茨城県農業総合センター病害虫防除部より発表されました。出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は防除を実施し、その後も出穂後10～15日頃に幼虫を確認した場合には追加防除を行ってください。

例年、梅雨明けまでは発生が増加しますが、現在の葉いもちの発生は「少」です。今後、上位葉への進展がみられなければ問題ありません。

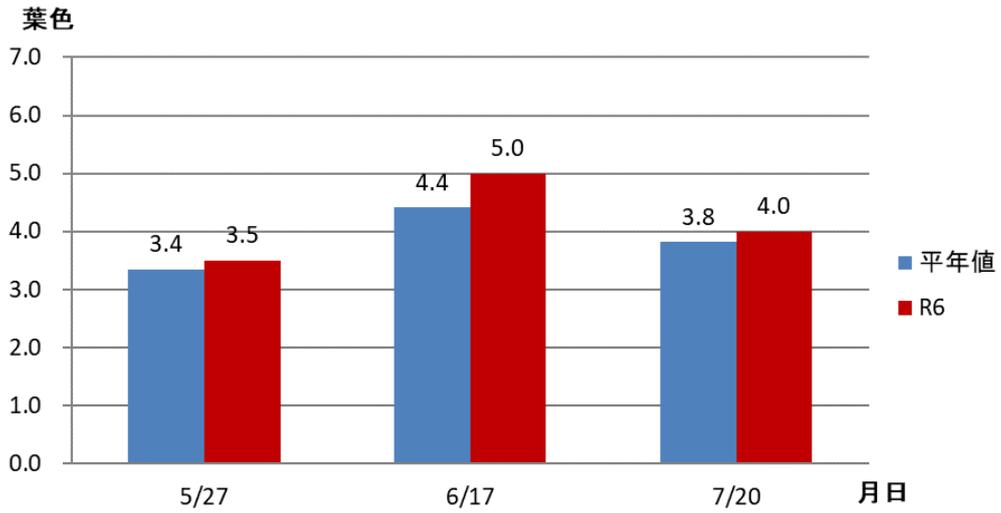
現在の紋枯病の発生は「無」です。紋枯病は、毎年同じ圃場で発生しやすい傾向がありますが、気温が高いと発生を助長する条件になるため、株元（水際部）で初期発生が見られたら、幼穂形成期から乳熟期にかけて薬剤防除を行います。

2) 茨城町の調査結果

調査場所	品種	移植日	調査日
茨城町	コシヒカリ	5月11日	7月18日

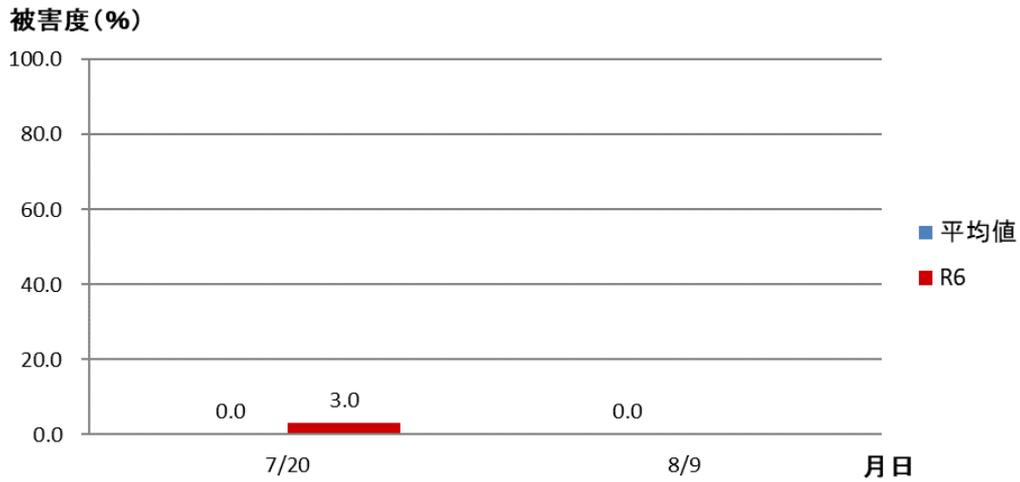


葉色(カラースケール)



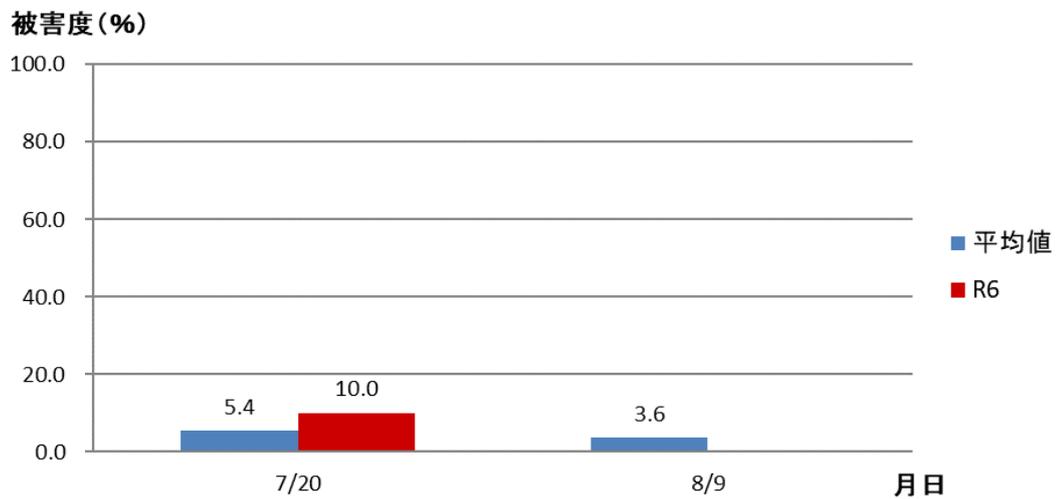
※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

カメムシ類



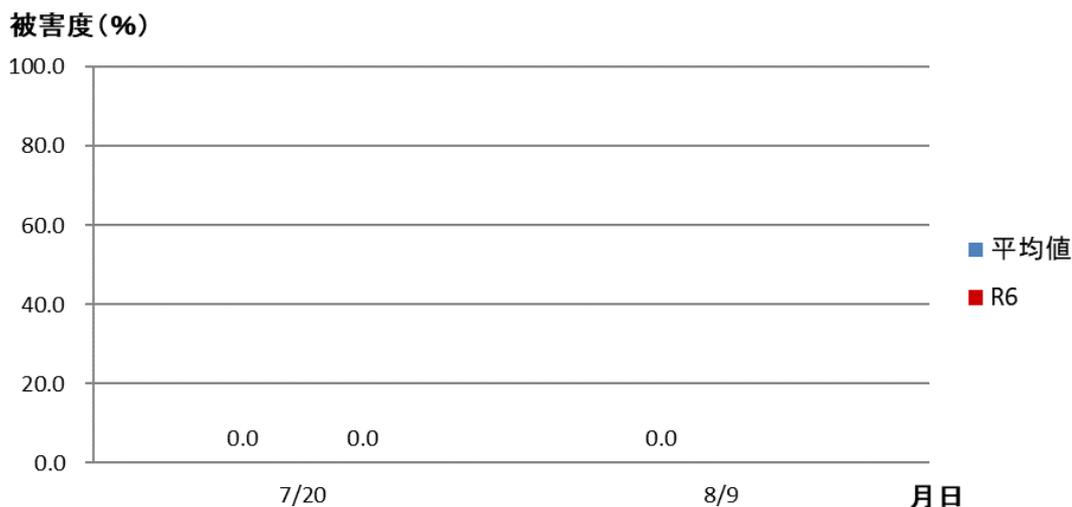
※横軸の月日は調査実施基準日

葉いもち



※横軸の月日は調査実施基準日

紋枯病



※横軸の月日は調査実施基準日

- 被害度は該当虫による葉の食害の度合い
- 平年値は令和1～令和5年の5年間の平均値

○生育調査結果について

【生育状況：過去5カ年の平均値との比較】

生育は、過去5カ年の平均値に対し、草丈は平年並み、茎数は少なく、葉色は平年並みとなっています。

【今後の管理上の注意点】

茎数が少なく推移しています。気象庁の長期予報では、今後、気温が高くなることが予測されていますので、乳白米の発生抑制を目的に、根の活力を維持するため、自然落水しながら2～3日程度の湛水と落水後、田面が乾く前に入水を繰り返す間断かんがいを実施しましょう。

○病害虫発生調査結果について

現時点で、カメムシ類の発生が「中」となっています。本年は、県内で斑点米カメムシ類の発生が特に多くなっており、7/11に4年ぶりとなる病害虫発生予察注意報が茨城県農業総合センター病害虫防除部より発表されました。出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は防除を実施し、その後も出穂後10～15日頃に幼虫を確認した場合には追加防除を行ってください。

例年、梅雨明けまでは発生が増加しますが、現在の葉いもちの発生は「少」です。今後、上位葉への進展がみられなければ問題ありません。

現在の紋枯病の発生は「無」です。紋枯病は、毎年同じ圃場で発生しやすい傾向がありますが、気温が高いと発生を助長する条件になるため、株元（水際部）で初期発生が見られたら、幼穂形成期から乳熟期にかけて薬剤防除を行います。

2. 次回調査予定日

8月5日

茨城県農業共済組合連合会調べ
協力：茨城県農業総合センター